

## 第2回向日市地域公共交通会議 会議録

- 日時 平成26年12月19日(金) 14時～15時5分
- 場所 向日市民会館 第1会議室
- 出席者 (委員)  
久嶋市長(会長)、河崎委員、平山委員、近藤委員、五十棲委員  
春田委員、中村委員、清水委員、木ノ山委員、川本委員、川嵩委員  
川合委員、越智委員、宇野委員(議長)、谷内委員  
今西委員(代理 中川氏)、村上委員、菅沼委員
- (事務局)  
酒井市民生活部長、松下防災安全課長、小畑防災安全課課長補佐  
長田防災安全課主任
- 傍聴者 11名
- 次第 1 開会  
2 会長あいさつ  
3 委員紹介  
4 議事  
(1) 会議の公開について  
(2) 新設ルート案について  
5 その他  
6 閉会

---

### 1 開会

### 2 市長あいさつ

### 3 委員等紹介

### 4 議事

#### (1) 会議の公開について

傍聴について許可された。

#### (2) 新設ルート案について

事務局

(資料に基づき、事務局より説明)

前回の会議以降、委員の皆様から頂戴したご意見、ご検討いただいた内容に基づき、事務局と本市域にバス路線のある民間バス事業者と提言書の内容を踏まえ、既存バス路線の再編について協議させていただいた。そのうち、阪急バ

ス株式会社から新たなルート案について提案があり、協議しているところである。

なお、京阪京都交通株式会社、株式会社ヤサカバスについては、提言に基づき、既存路線の見直し等について意向を確認させていただいたが、見直し等の意向がないとのことであったので、本日は、阪急バスとの協議内容について、委員の皆様からご意見を伺いたい。

現在協議中の新設ルート案は、資料（「資料① 新設ルート案」）に赤い太線で表示しているものである。

また、バス停については、阪急バスの既設路線と重なる部分は、既設のバス停を利用し、重ならない部分についてはバス停を新設することとし、その案については路線上に黄色の二重丸で表示している。

参考資料「路線バスと新たな公共交通の運行してほしいルートの重複状況」（前回会議で配布）についてであるが、こちらは平成23年9月に実施した市民アンケート調査をもとに作成したものである。

資料①と並べて見てもらうと、今回阪急バスから提案のあった新設ルート案については、鉄道駅や、市民体育館、ゆめパレアなどニーズの高い場所・施設を通り、なおかつ、既存の路線と重複しない道路を走ることが分かると思う。事務局としては、この新設ルート案が市民ニーズを一定満たすので、提言書に基づく短期的な取り組みの一つとして年度内にも運行を開始できるように進めたく考えている。

委員（資料の補足説明）

今回のルート及びバス停については、一番重視したのが安全に安心して走行できる環境かということである。そういう意味で、ほぼ要望に沿った需要の高いルート設定、停留所の設置となった。森本上植野幹線をまっすぐ南下するルートの要望も高かったが、狭隘な道路区間が一部に残っているため、肝心のバス停の設置が難しい点や、南下したときに外環状線を右折する形になるが、交通量が多く、特に朝のラッシュ時など時間帯によっては、右折しづらいため危険だということで、このようなルート案に至った。

また、向日市以外にも共通することであるが、将来的に少子高齢化や人口減少等も踏まえながら、持続可能な公共交通を目指している。具体的な運行本数については、既存ルートの阪急東向日駅からJR向日町駅を通過して、中久世、下久世、東土川へと至るルートが現行1日8往復しているが、新ルートに割り振るといった形の調整を考えている。

委員 上植野の要望として、森本上植野幹線をまっすぐ南下していただきたい。バス停についても、浄水場までであれば、十分に設置できるのではないかと考えている。また、外環状線は絶えず停滞しているので、安全に曲がれるのではないかと考えている。

事務局 お聞きしたルート等については、要望の多いルートということで、阪急バスと何度か協議させてもらったが、道路構造上や安全上の問題で厳しいということであった。ご提案いただいたことについては、今後も引き続き検討していきたいと考えている。

委員 上植野としては、この道路は向陽高校もあり、浄水場もあり、第5向陽小学校もあり、向陽苑もあり、ひまわり園もあり、将来の向日市の幹線道路になる場所だと思っている。まだまだ農地もあり、発展の余地の残っている道だと思うので、ぜひともよろしくお願ひしたい。

委員 市民体育館前のバス停を利用しようと思った場合、下森本地域や藪路地域については、JR京都線があるために、非常に遠い感覚をもってしまう。できれば、藪路に入るルートを設定してもらって、森本郵便局周辺にバス停を置いてもらえないだろうか。

また、市民体育館とゆめパレアのバス停2か所を近くに新設する理由は何か。

事務局 森本郵便局周辺へのルートとバス停の提案については、初めていただいたご意見でもあるので、今この場でできるできないとお答えするのが難しい。時間をいただきたい。

委員 ぜひとも検討をお願いしたい。

議長 この場ではご意見として承るということにしたい。

事務局 体育館前とゆめパレア前のバス停の間隔が近いのではないかというお話であるが、より多くの人々が利用できるよう利便性等を考えると、ここに置くことは当初からの提案にあった。

議長 「持続可能な公共交通」ということになると、できるだけ多くのお客さんに乗っていただくということが必要になるので、集客性を高めるという意味からすると、集客力の高い施設のところにバス停があることは決して悪いことではないと思う。市としてはともに主要な施設かと思うので、両方にあった方がいいのかなと思う。

委員 バス停とバス停の距離が長いと、利用しづらいと思う。例えばバス停とバス停の間が800メートルであれば、大体500メートル、直線だったら400メートルともいうが、最大500メートルくらい歩いたらバス停に到着。そこで目的地に行って、目的地から家に帰ってくるときに降りたら家に近い、という形にしなければ、利用者の利便性が図れないと思う。そこのところも考慮していただくと、森本地区の意見がもっともではないかと思う。

ただ、バス停を作るには道路構造上、色々規制があるので、バス停ができるように市の方で考えてもらうことができないか。

事務局 今後の取り組みの中で、当然利用促進を考えていく必要がある。その中で、利便性の向上をどう図っていくかについては、ハード面の改良も重要であり、今のご意見を含め、少しでも利用しやすいような環境づくりに取り組んでいく必要があるかと思っている。今いただいたご意見も参考にし、今後の取り組みの中に生かしていきたいと考えている。

議長 非常に貴重なご意見かと思う。特に今まで道路の整備というのは、車を通す、荷物を積んだ車を通すということを主目的に改良、改善してきた。少し見方を変えれば、バス停を作るために道路を改良しましょう、あるいは公共交通をもっと良くするために道路を改良しましょう、そういった観点もあるのかなと思う。

委員 森本からJR向日町駅へ抜けるのに、不便なルートを通られていたのが、寺戸森本幹線が開通して車もかなり増えたように見られる。その交通量を考慮に入れてルートの検討に入ると前回お聞きしたように思うが、検討されたのかどうか。

事務局 前回の会議では、寺戸森本幹線も含め、北部開発や新市街地の街開きなど、今後の交通の流れを見ながら、中・長期的な取り組みの中で検討させていただくと説明させてもらった。寺戸森本幹線のルートについては、JR向日町駅と阪急東向日駅の間に出てくるということもあり、鉄道駅を經由して行きたいというニーズも高いことから、このあたりのルート設定が難しいので、今回は見送りをさせていただいた。

ご指摘の件については、提言書の中・長期的な取り組みの中で一定検討させていただくこととしたいと思うので、今回いただいたご意見も十分に参考にしながら検討したいと考えている。

委員 私から二つ、お願いと提案をさせていただきたい。一つはバス停について新しくバス停を設置する際に、できるだけバリアフリーに配慮したバス停にしていただきたい。向日市の場合、かなり歩道が狭い箇所も多いので、そこから車椅子やベビーカーの人がバス停にのぼることがすごく難しく、留置スペースが無いような状況である。少し難しいかもしれないが、道路側でなく、施設側に余裕があるようなら、土地を活用して留置スペースを確保し、そのような形でバリアフリー化を検討していただきたい。

二つ目は、新しいバスルートが通るということなので、利用促進策を何か考えていただきたいと思う。例えば、市民体育館でイベントがある際には、チラシに必ず「この時間に乗れば、このイベントに間に合うよ」あるいは、「帰る

ときはこれに乗ればいいですよ」というような告知をしたり、試し乗りのような形で特に子どもたちに乗ってもらって、体育館に来てもらう、ゆめパレアに来てもらうというような形で、まずは今までバスに乗ったことのない方にバスに乗ってもらうというような対策を考えてもらえたらと思う。

事務局 新しいバスルートの利用促進策については、短期的な取り組みの中でモビリティマネジメントとして、公共交通の利用促進を考えている。体育館やゆめパレアを利用する方、鉄道駅から施設を利用される方もあり、また、体育館でイベントも結構あるので、体育館なりゆめパレア側と十分お話しして、今後取り組んでいきたいと考えている。

バスのバリアフリー化については、ご指摘のとおり、取り組みが十分でないということについては、十分に認識している。今回運行するバスについては、小型バスで低床式のものをお願いしている。バス停とバスの乗り口でできるだけバリアが無いようにして、車椅子の方も利用してもらえよう環境をバス側から整えていきたいということと、バス停の取り組みについては、歩道の広さ等色々と制約がある中で、こういったことがまずできるのかについては、新設ルート案のバス停だけの問題ではないので、今後の大きな課題として、全庁的な対応なり取り組みが必要である。

委員 今回の提案について、市民として感謝しなければならないと思っているが、大事なものは収益性で、収益性に寄与するには利用しなければならないと思う。提言書を見ると、中・長期的な取り組み案に老人福祉センター送迎バスの活用というのがあるが、中・長期ではなく、短期的な方向で検討していただきたいと思う。

事務局 老人福祉センターバスの活用については、提言の中で中・長期的な取組みということで盛り込まれている。私どもの考えとしては、今ご審議いただいている短期的な取組みを一定行ってから、検討していきたい。

議長 いろんな手段を活用してということで、老人福祉センターバスの活用ということも当然視野に入れながら、阪急バスその他の民間バス事業者の営業が安定的に続けられるよう、今後、検討いただきたい。

委員 上植野からの要望だが、道路が狭くて回りづらいということで言われるが、こういう問題点さえ解決できれば、走らせることができるか。

事務局 森本上植野幹線を南下するルートについては、先ほどご説明させていただいたように、将来的に道路構造の一定条件が整えば、阪急バスと協議したいと考えている。

- 議長　これはあくまで短期的な取り組みの一環ということでやっているのですが、これが必ずしも最終の姿ではないと理解していただきたい。
- すべての答えがここできれいに出るというわけではないと思うが、今回ご提案いただいて、個人的には前進ととらえている。特に公共交通空白地帯が縮まったということ、また、市の主要施設を結ぶ路線ができたこと、これは非常に大きなポイントかなと考えている。
- 先ほどからご意見があるように、新設の路線だけでなくもちろん既存の路線も含め、使っていただいて初めて意味が出てくるものなので、市民、近隣の方にどうやって使っていただくかという取組が今後、短期的な取り組みの中で重要になって来る。
- 委員　今、話があったように、一步前進ということでありがたいこととは思いますが、利用者がどのくらいというのは、実際運行してみないとわからない部分も非常に多いと思う。今後、仮にこれを運用して開始した場合の計画はどのように考えているか。
- 事務局　今年度末から運行を開始し、いろんな利用促進の取り組みを27年度からしたいと考えている。当面は利用状況の推移を一定見守る必要があると思う。あまり短い時間では結果の推移がわからないので、ある程度の時間をいただいて、利用促進、利用状況を見守る必要がある。それも含め、利用が伸びたり、あるいは芳しくない状況等も総合的にみる中で見直しを図っていききたい。詳細なタイムスケジュールは決めていないが、一定期間利用の状況を見て、どのように利便性を向上させることができるか、今日いただいたハード面、ソフト面のご意見を踏まえ、やっていききたい。初めての取り組みであるので、ある程度の期間、時間をいただきたいと思いますと思っている。
- 委員　市民の皆さんからアンケートをとられて、今回このようなルートを阪急バスさんが考えられたということであるが、他のところで例を挙げると、こういう新しい路線にしても、コミュニティバス導入にしても、市民の皆さんのいろんなご要望で走らせるのだが、ふたを開けてみると、全然乗ってないじゃないかということがいっぱい出てくる。要は希望的な観測で要望してこられただけということがあるので、やはりいかに利用するか、利用して不便であればどんどん良くしていかなければと思う。
- 委員　今考えているバスの運行時間について、どのような時間帯に走らせるというような考えはあるか。
- 委員　冒頭で申し上げたように、現行の171号線を通るルートが8往復あり、既存のルートの一部を新ルートに置き換えた形での運行を考えている。現行は7時台から遅い時間は阪急東向日駅起点で、21時過ぎまでであるので、現行の時

間を基本に新ルートの分の調整は今後考えたい。

議長 おそらく特に土日の利用が多いのではないかと思うが、体育館のイベントの開催状況などご覧いただいて設定いただくとお客さんに乗っていただきやすくなると思う。

先ほど申し上げたように、これはあくまでも最終形ではなく、状況に応じて変わり得るものであり、状況が変わればよりニーズの高い方、地元のご意見を踏まえてということになるかと思う。今日出たご意見を事務局で精査していただいて、少しでもより良い向日市の公共交通のあり方に近づいていければと考えている。

## 5 その他

事務局 冒頭に申し上げたとおり、このルートについて今年度中の運行を図れるように、今後阪急バスさんはじめ関係機関と調整を進めたい。運行時期等詳しいことが決まれば、改めて委員の皆様にお知らせさせていただく予定である。時期等についてはまだ何も決まっていないので、今年度中の運行に向け、阪急バスさんと鋭意進めて行きたい。

会長 熱心にご議論をいただき、ありがとうございます。既存のバスルートを活用して、現時点で考えられる一歩前進したルート案を考えていただいたと思う。今日いただいたご意見をできるだけ取り入れていただけるよう、これからも進めていきたい。

## 6 閉会